

**1. 年頭にあたって ~日本リザルツ理事/ストップ結核パートナーシップ日本推進議員連盟会長 広中 和歌子~**

新年明けましておめでとうございます。

私とリザルツとの関わりは早や20年に及ぶ。政治家になってまもなく、ワシントンを訪れた際、ユニセフのグラント事務局長のお誘いで、全米ボランティア大会に出席した。メインテーブルの隣に座ったのがサム・ディリー・ハリス氏で、人なつこく私に話しかけてきた。「結果を出す NGO、リザルツを始めたんです」という。この大会のテーマが「世界から1億人の貧困を無くす」であったことから、私が彼に「そんなことは可能ですか?」と尋ねると、「可能です。可能にするのです」という答えが即座に返ってきた。

日本にも既に支部があるということだったが、日本に帰ると、早速、日本リザルツのウォーカー氏や長瀬氏らの訪問を受けた。

彼らの依頼で、私の参議院オフィスから、実に多くの発信を行った。日本からのODAを増額することへの政府への陳情や、国会議員の署名を集めて世界銀行やアジア開発銀行などの総裁宛に、貧困層へのローンの割合を増やすことなどを訴える手紙を送ったりした。

又、1997年、アメリカのワシントンDCで世界中から4000人もの人々を集めて開催されたマイクロクレジットサミットにも、ハリス氏のリーダーシップの下、私は準備委員会の一員として、ムハマド・ユヌス博士などと共に参加した。ユヌス博士とは、その後来日された際、衆参議員を集めて、マイクロクレジットについて講演をして頂くなど、交友が続いている。2006年ノーベル平和賞を受賞されたことは、貧困問題解消に取り組む者にとって実に嬉しいことである。

こうした運動に参加しながら、私は“アメリカ流”いや“リザルツ流”のNGOの活動を学んだ。結果(リザルツ)を生み出す喜びも多く味わった。

最近、私は「ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟」の会長を引き受けた。「日本リザルツ」に背中を押され、支えられてのことである。更には、MDGs(ミレニアム開発目標)の達成や地球温暖化防止のために、国際連帯税、なかんずく通貨取引税の導入を目的として、超党派の「国際連帯税の創設を求める議員連盟」が立ち上がったが、私も犬塚直史議員などと共に参画している。この運動を民間で推進する有力なグループのメンバーの中に、日本リザルツの白須紀子さん等がいる。彼らと発想を共にし、あるいは触発され、新たな活動に結びつけていく、こうした関係が今後とも続いていくことを、私は心から期待している。

参議院議員 広中和歌子

**2. 最新の活動; メキシコ・カンクン訪問報告、寺島委員会中間報告、副大臣への要望等****【 第40回国際結核肺疾患予防連合(IUATLD)大会 (メキシコ・カンクン) 】**

標記大会および関連イベントがメキシコ・カンクンで2009年12月3-7日まで2000名を集めて行われ、日本リザルツの狩野も出席した。12月3日は、WHOのストップ結核部主催の会議が行われ、結核部門のワーキンググループとその課題が紹介された。また結核の現状ということで担当者から発表があり、最新情報をいれた「2009年結核報告書」が12月8日にできるとアナウンスされた。12月4日は、基調講演後、ユニオン科学賞、ユニオン公衆衛生賞、秩父宮賞、コチョン賞の表彰式が行われた。秩父宮賞では結核研究所の石川所長がその意義についてスピーチを行い、コチョン賞受賞者の一人はケニアの結核・エイズアドボカシーを行っているルーシー・チェシーレ氏(リザルツメンバー)が受賞した。

日本リザルツは、大会期間中、米国「アクション」チーム、予防会・研究所、JICAの展示ブースで途上国参加者に日本の案件創出メカニズムを説明しメールで資料を送る約束をおこなった(南ア、タンザニア、ケニア、ナイジェリア、レソト、インドなど)。大会前日の2009年12月2日にはストップ結核パートナーシップのアドボカシーアドバイザーコミティ(AAC)に

よるネットワーク会合に出席し、ここでも日本の世界結核対策へのコミットメント(2008年ストップ結核日本アクションプラン)と二国間案件創出メカニズムについて資料を配布して説明した。大会を通じての印象であるが、残念なことに、世界の肺疾患関係者が集まる国際イベントであったが、欧米とアフリカのプレゼンスが圧倒的で日本のプレゼンスはゼロに近かったことである。次回からの日本の結核関係者の巻き返しが望まれる。



メキシコ・カンクンの大会会場



AAC会議の様子



リザルツの展示ブース

**【 国際連帯税推進協議会(寺島委員会)中間報告 】**

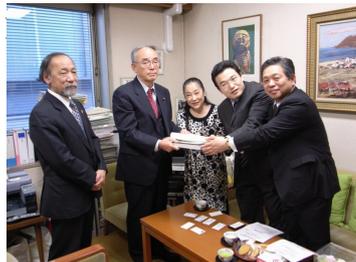
国際連帯税推進協議会(座長:寺島実郎氏、通称寺島委員会)は、2009年4月に創設された。委員は、この分野と関連する研究者、日本リザルツなどのNGO、国会議員、ならびにオブザーバーとして、外務省、財務省、環境省、世界銀行から構成され、これまでに5回の協議会が開催され、3回の専門家ヒアリングが行われた。まとめとなる中間報告書案は、11月27日の第五回委員会にはかられ12月6日に修正案が公表された。この報告書は、鳩山内閣、国際連帯税創設を求める議員連盟、関係省庁、内外のNGO、研究機関、革新的開発資金に関するリーディング・グループならびに「開発のための国際金融取引に関するタスクフォース」、マスコミなどに広く配布し、国際連帯税の立法化の契機となることを目指している。1月28日、29日、次回リーディング・グループがチリにて開催。日本リザルツの狩野が出席する予定。

**【 横浜市立大学・結核予防会・世銀・JICA 連携の可能性 】**

2009年11月20日に横浜市大キャンパスに横浜市立大学(岡田副学長以下)、結核予防会(安藤課長)、日本リザルツ(白須、狩野)が集まり、市立大学とそのコンソーシアム、横浜市、JICA、世銀、予防会、リザルツなどで国際保健分野などの国際協力案件獲得にむけてどうアプローチしていくかについて議論を行った。2009年9月に横浜市立大学は、国内外の大学とコンソーシアム協定を締結することで合意し、幹事校となった。横浜市立大学の大きな柱のひとつである地域貢献の一環で国際協力も積極的に取り組むことを表明している。第二回の会合は、1月7日に岡田・五嶋両副学長らと浜田・結核議連事務局長、島尾・結核予防会顧問、下内・結核研究所副所長、リザルツとの間で話を進める予定。大学連合がもっているシーズ、その背後にある都市の行政連合がもっているシーズを分析統合し途上国の公衆衛生・環境対策などの解決にむけた処方箋のパッケージ化を行い、具体的国際協力案件で実現していくことを目指している。

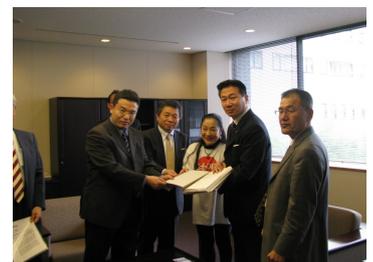
**【 峰崎財務副大臣、福山外務副大臣への要望 】**

予算編成も大詰めを迎えた12月4日、14日、峰崎直樹財務副大臣と福山哲郎外務副大臣に対し、協力団体と共に要望を行った。



峰崎財務副大臣へ要望

昨今の日本政府の財政状況の逼迫により、来年度予算におけるODAの大幅削減が懸念される中、世界基金への拠出拡大、GFATMやGDF等への拠出拡大を訴えるとともに、革新的資金メカニズムとしての国際連帯税の導入を求めたものである。両副大臣は、感染症対策の重要性を理解するとともに、国際社会での日本のプレゼンスの向上に意欲を示した。



福山外務副大臣へ要望

**【 大塚製薬の新薬開発 】**

12月8日大塚製薬が結核治療薬として開発しているOPC-67683の研究状況の説明に同行した。STB/推進議員連盟のメンバーや関係省庁の担当官をはじめ、反応は極めて良好。今後のバックアップに期待をしたい。認可されれば、1966年以来の新規抗結核薬となる。既存結核薬とは違う新しい作用機序を持っており、強力な抗結核活性が確認されている。また、多剤耐性、超多剤耐性結核菌へも有効であり、現在、多剤耐性結核患者を対象に世界9カ国、17施設にて臨床試験が進行中である(日本、中国、韓国、フィリピン、エジプト、米国、ラトビア、エストニア、ペルー)。今後の展開に注目したい。

## 【 第2回ODA改革パブリックフォーラム 】

11月28日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された。国際NGO関係者、外務省、国際機関、国会議員、学者ら有識者など多数が参加した。日本政府へODA改革に関する共同提言が発表された。そのなかで地球社会の平和的共存を導くため、また貧困削減に向けたミレニアム開発目標(MDGs)などの達成のため日本政府は国際的協調をリードしていくべきであり、国際協力省の設立、ODA基本法の制定などの提言が行われた。その後の分科会や全体会議では、阿部知子衆議院議員、山内康一衆議院議員、藤田幸久参議院議員らが出席し、NGO大使の民間人(学者や国連職員など)登用、ODA基本政策や広報の抜本的な見直し、NGO全体の信頼性向上をはかり、ODAに対する厳しい世論の転換をはかる必要がある、等の意見が出された。また、出席した白須の国際連帯税の必要性を訴える発言に参加者から多くの賛同を得た。



ODA課題検討分科会の様子

## 【 友愛政治の理念とその可能性 】



小林正弥・千葉大学教授

12月29日、千葉大学公共哲学センター主催の「友愛政治の理念とその可能性 - コミュニティをつなぐもの - シンポジウム」が開かれた。小林正弥・千葉大学教授、鈴木寛・文部科学副大臣の講演、その後のパネルディスカッションの部に参加した。政権交代を果たした鳩山政権は“友愛”を掲げているが「友愛」という理念の内容やその政策的な意味について、地球的平和、環境、福祉、持続可能な経済やコミュニティ、税制など様々な観点から意見や議論



鈴木寛・文部科学副大臣(左)

がなされた。そのなかで、小林教授は国際連帯税を「地球的友愛税」と呼んでは、と述べられておられたが、まさにこれは、日本リザルツが国際連帯税を「YOU・I(ユウ・アイ)」というネーミングで、国内はもちろん世界に向けて普及推進させていくべき、という考えと一致するものであり、大いに共感した。

## 3. マイクロクレジット(MC)

~伊藤 洋子さん~

### マイクロクレジット近況報告(9)

私は社会人ですが、大学の通信教育プログラムを受けています。専攻は人間関係学で主に経済社会学と教育学を中心に学んでいます。マイクロファイナンスは6年前に開発経済学の先生から聞いて知りました。このような取り組みがあったことに強く感銘を受けましたし、ムハマド・ユヌス氏のノーベル平和賞受賞は本当に嬉しかったです。そして先般、「マイクロファイナンスにおける社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)の機能 途上国貧困削減プロセスの事例研究を手がかりに」というタイトルの論文を大学に提出しました。この論文執筆にあたっては、日本リザルツの皆様へ資料提供などを通して大変お世話になりました。ありがとうございます。論文内容は、マイクロファイナンスにおけるソーシャルキャピタルとの関連性を先行研究から検証し、貧困削減に向けた取り組みの有効性を探ったものです。ソーシャルキャピタルとは一般的に、「ネットワーク」「信頼」「規範」といったものを、社会で形成され蓄積される「資本」としてとらえる概念です。この検証には、JICA(国際協力機構)およびJBIC(国際協力銀行)のインパクト調査結果から得られた知見を、ソーシャルキャピタルの機能にてらして考察しました。結果は、マイクロファイナンスを利用して貧しさから脱することができた人たちは、グループレンディングにおいて定期的な集会参加や返済で、信頼関係ときまりを守ることとネットワーク構築を大切にしていた人たちが多いということを確認できました。ここで特筆したいことは、貧困から脱したかどうかということ、本人たちが決めるということです。トタン屋根の家に住む、家族全員が布団を持つ、安全な飲み水や食糧を得る、蚊帳を持つ、寒い日のための衣類を持つ、子供がみんな教育を受けられるようになる…など、最初に目標を設定して、それが達成されたことが「貧困からの脱出」なのです。働くための元手を手にして自活していき、生活改善目標に達することが、ソーシャルキャピタル醸成へとつながっていき、マイクロファイナンスを成功へと導きます。また、ケーススタディ資料を読みながら、マイクロファイナンスを利用してこのように貧困から脱していく人たちの、けなげさ、ひたむきさ、うつくしさに、頭の下がる思いがして、幾度となく涙しました。最後に、今後ますますマイクロファイナンスへの認知・支援が拡大し、貧困から自力で脱出する人たちが増え、貧困撲滅へと繋がっていくことを願って止みません。

2009.12.23.伊藤洋子

#### 4. パートナー / ボランティアの皆さまからの声

～石田 真里さん～

ここホンジュラスにきてまだ 1 か月もたちませんが再来週には任地へ行く予定です。今、首都テグシガルパはいまだに政情不安の影響もあり今週だけで爆発事件が4件起きているとのこと。それ以前の話でも、ひとりでの外出はもちろん外を歩くことは危険なため、どこへ行くにもタクシーをつかいます。そんな中私は今どこにいるのかというと、語学訓練で1か月間は首都から離れた Valle de Angeles という街にきています。ここはとっても落ち着いていて安全です。さて、今回はホンジュラスのお金にまつわる話です。日本は円ですが、ホンジュラスのお金の単位は“レンピーラ”(L.)といえます。こちらでは、シャンプーなどは300レンピなので1500円くらいで少し高い印象がありますが バナナは7レンピ程度なので15円 その他牛乳などは100円から200円。パンなどは6個くらい入って120円～200円。カフェテリアで飲むカフェ(スターバックスみたいなどころ)は一杯20～27レンピなので100円～150円程度です。ものとしてやっぱり持ってきた方が良かったと思うものは味噌、醤油、ほんだしですね。これは日本から持ってきたものの方が安心だし、まず味がいいこと!! だって、こちらでは醤油と書いてあっても、醤油の匂いじゃないものがあるくらいですから。

2009.11.8. JICA 青年海外協力隊 保健師 石田 真理

#### 5. お知らせ

【 STBJ 常任理事会 】

1月19日(火) 午後5時30分～ 予防会水道橋ビル大会議室にて開催。

【 国際連帯税リーディンググループ 】

1月28日(木)、29日(金) 南米チリにて開催。狩野が出席予定。

【 国際連帯税を推進する市民の会(アシスト)冬期集中セミナー 】

1月30日(土) 午後1～6時 賀川豊彦記念松沢資料館研修室にて開催。

#### 6. 日本リザルツメンバーから新年のご挨拶と抱負 ～あけましておめでとうございます～

スタッフ

「熱意が基本にあると、絶えず、寝る間さえも考えるようになる。」松下翁に学ぶ2010年に！ 白須 紀子  
新天地で迎えた新年。私も「世界の貧困との闘い」に尽力いたします。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

三浦 大紀

2008年に世界で946万人が結核を発症し、180万人が結核で死亡しています。この数字が少しでも小さくなるように頑張りましょう！ 狩野 伊知朗

混沌の時代の今だからこそ“志”と“想い”を共有し、人と人とを繋ぐネットワークを拡げていくことが大事！ 西尾 典晃  
小さな目標を出来るだけたくさん達成していきたいと思ひます！ 佐藤 吉寿

ボランティア

今年も皆さんと仲良く頑張りたひと思ひます。 高木 ミヨ子  
本当に微力ではございますが、少しでも皆様のお役に立てられるよう努めて参りたいと思ひます。 関口 智子  
多くの人たちのお役に立てられるよう頑張ってみたいと思ひます。 福田 智子

当マンスリーレターに関するご質問・ご意見などございましたら info@results.jp までご連絡ください。

ご寄附のお願い: 世界の貧困・保健問題の解決のため、政策提言活動を行っております。持続的な活動を続けるためにご支援をお願いいたします。郵便局の払い込み用紙に、口座番号00170-9-581459(加入者日本リザルツ)とご記入ください。便利な自動口座引落しについては TEL:03-5280-2888 までお問い合わせ下さい。

リザルツは、政治家やメディアと協力し、貧困に苦しむ人々の声を政策に反映させ、「貧困と飢餓のない世界」を創ろうと活動している国際市民グループ(NGO)です。日本の他、米国、カナダ、英国、フランス、豪州、ドイツ、メキシコなどで活動しています。日本リザルツは1989年の発足以来、ODA(政府開発援助)政策において、貧困削減への費用対効果が高く、且つ、顔の見える援助政策について、政府に提言しています。リザルツのユニークな活動方法は、草の根の市民から、国務長官のヒラリー・クリントン氏、経済学者ジェフリー・サックス氏、元南アフリカ大統領ネルソン・マンデラ氏など世界の著名人達に至るまで、幅広い層の支持を得ています。マイクロクレジットでノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス氏は、日本リザルツの名誉顧問です。